

研究主題

めあてにむかって

自分の考えを**表現**できる児童の育成

～国語科において「対話」で学び、「書く活動」へ～

令和4年度～5年度8月までの研究資料

令和5年9月6日（水）
所沢市立中富小学校

「めあてにむかって」とは

- ▶ 中富小では、昨年度から授業における「ねらい」を大切にしてきた。そのねらいをすべての児童に到達させるために、授業では「めあて」を提示する。
- ▶ 学び合いの中で、児童の学習の指針となり、困ったときに立ち返るものも「めあて」である（「今日のめあては何だった？」）。学びたくなる「めあて」、考えのよりどころになる「めあて」を常に意識できる児童を育てていきたい。

「自分の考えを表現できる」とは

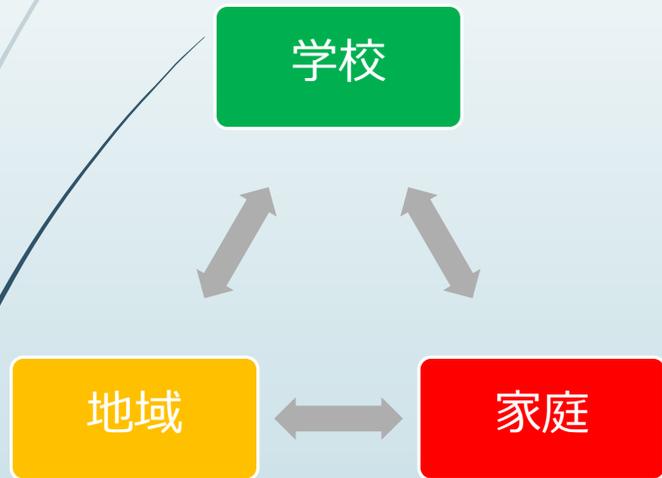
- ▶ まず、**自分の考え**をしっかりと持たせたい（自分の考えだから正解も間違いもなし）。他人と違っている所を「おもしろいな」「いろいろな考えがあっていいな」と思えるような指導を工夫する。
- ▶ 社会生活において、自分の考えは**発信することで意味をもつ**。（同じ考え、ちがう考え、似ている考え、認識のズレ、さらによくするためには、おかしいところはないか などに気づく）
- ▶ その際は、実感を伴わせながら、自分の考えを**伝える必然性**を指導する。伝え合うことに意味を感じ、その楽しさを味わうことができれば主体的な表現活動が期待できる。
- ▶ 「発表する」「文に表す」「伝え合う」「画像で発信する」など表現する方法はさまざま。**実態にあった方法**を選択する。

「学び創造アクティブPLUS」の基本理念

子ども達は

「できるようにになりたい、よくなりしたい」

と願っている。



能動的学習者観に立った子ども観



「未来を切り拓く確かな学力」の育成

「学び創造アクティブPLUS」の行動方針

柱1 子ども達の『必要感・達成感』を大切にします。

柱2 一人一人に寄り添い、『自己肯定感』を高めます。

柱3 児童・生徒の『未来を切り拓く力』を育成します。

なぜかな？

やってみたい！

できるようになりたい！

できた！

わかった！

やればできるんだ

またチャレンジしてみたい

ちがう見方はないかな？

成長できた！

令和4年度（研究1年目）の取り組み



社会的背景と児童の実態

- ▶ 本校は、「読む・書く・話す・計算する・考える」などにおける基礎的な学力に課題がある児童が多い。基礎的な学力を習得している児童においても、学習内容の活用やそれらを発信するアウトプットの活動となると苦手意識をもつ児童もいる。素直で明るい児童が多い反面、学ぶ必然性がなく、わかったつもりになっていて表現することが恥ずかしいといった思いをもっていると考えられる。
- ▶ 学力の定着には、学習をくり返し行うだけでなく、児童が主体的に学ぶことができる学習方法の設定や学習を行う環境が大切である。「何を学ぶか」「どのように学ぶか」という学び方の素地を、今後ますます社会のデジタル化が進み、変化の激しい未来を生きていく児童には身につけていってほしいと願っている。

研究の目的

- 小学校期において、児童が主体的に学ぶ姿へと変容していくためには「やってみたい」「楽しい」「できた」「うれしい」などの気持ちが芽生えた時であると考えます。学年の発達段階に合わせ、自己肯定感を高める工夫、授業での対話的な活動やICT機器を活用した学習なども効果的に取り入れる方法を研究していく。
- また、本研究を通し、言葉を学ぶことや伝え合うことの楽しさを味わわせたい。言語を豊かに獲得していく中で、言葉に対する新しい発見や伝え方の技術も身につけていけるだろう。これらのことは、国語科だけにとどまらずに他教科へも影響する。
- さらに言えば、言葉を大切にすることは、相手を思いやることにもつながる。情報社会を生きる子どもたちには、相手意識をもち、リアルに伝え合うことの大切さや必要性にも気づかせていきたい。

目指す児童像

- (1) 身の回りの言葉に興味をもち、主体的に学びを進めようとする児童。
- (2) 自分の考えをもち、様々なツールを用いて周囲に伝えられる児童。
- (3) コミュニケーションの大切さに気づき、学びを深めようとする児童。

研究の仮説と手立て

【仮説 1】

学びたくなるめあてを設定し、学習方法を工夫すれば、主体的・対話的で深い学びにつながるだろう。



(R. 4 年度の手立て)

- ・ アドバイスを生かした俳句作り
- ・ 「ひとりでタイム」「おとなりとタイム」話し合う時間の設定
- ・ 「一人学びの手引き」活用

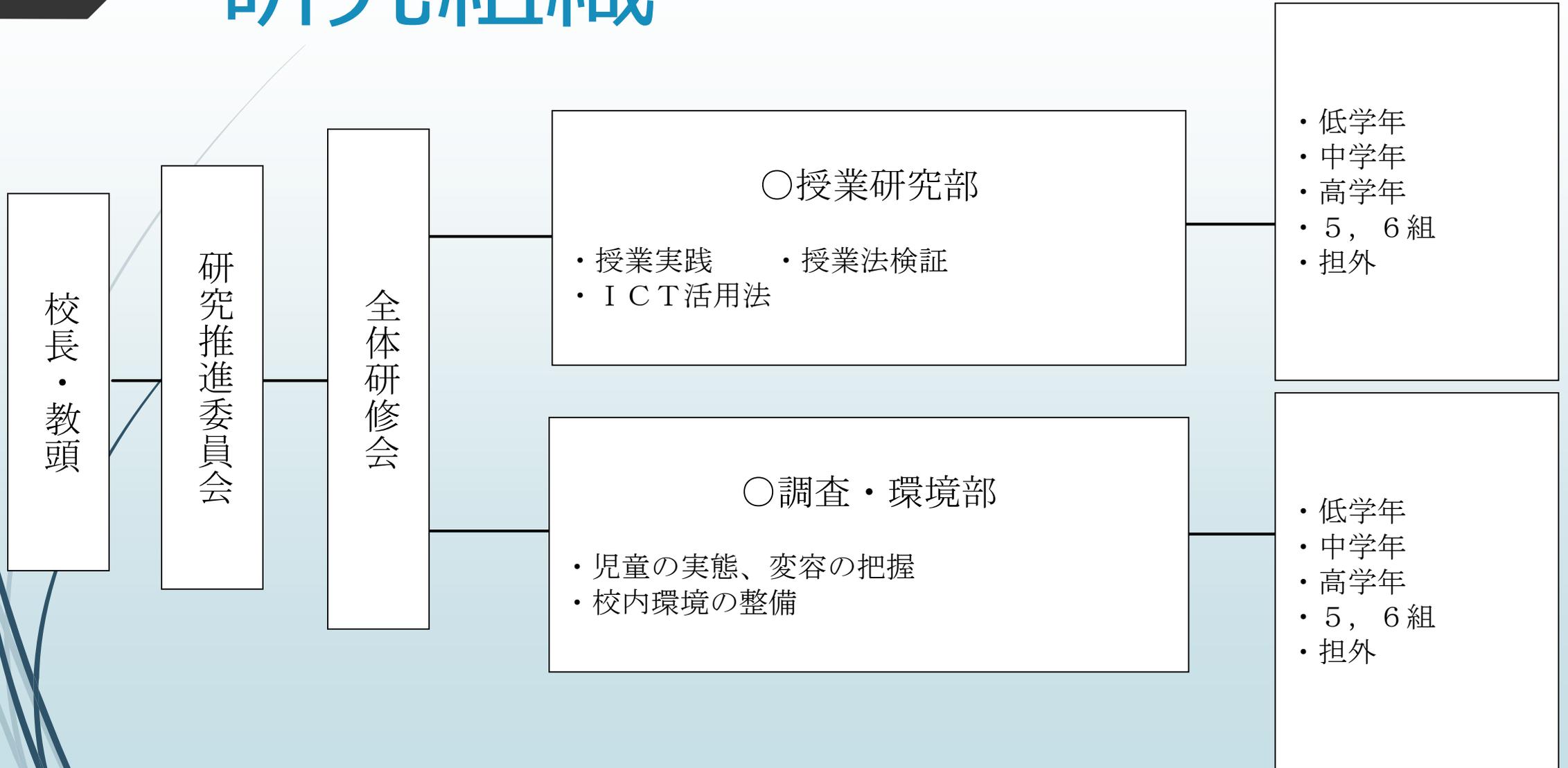
【仮説 2】

情報の収集・共有・発信の方法を工夫すれば、主体的にコミュニケーションをとろうとする児童が育成できるだろう。



- ・ カメラ機能の活用
- ・ 「比較・分類」時 Chromebook の活用
- ・ ジャムボード、スクールタクトで言葉の共有

研究組織



調査・環境部の取り組み

- ▶ クロムブックを活用したアンケートの実施
- ▶ 振り返りの掲示物の配付、統一
- ▶ 国語コーナーの設置。
言葉に対する児童の関心が高まった。定期的な掲示物の作成ができた。

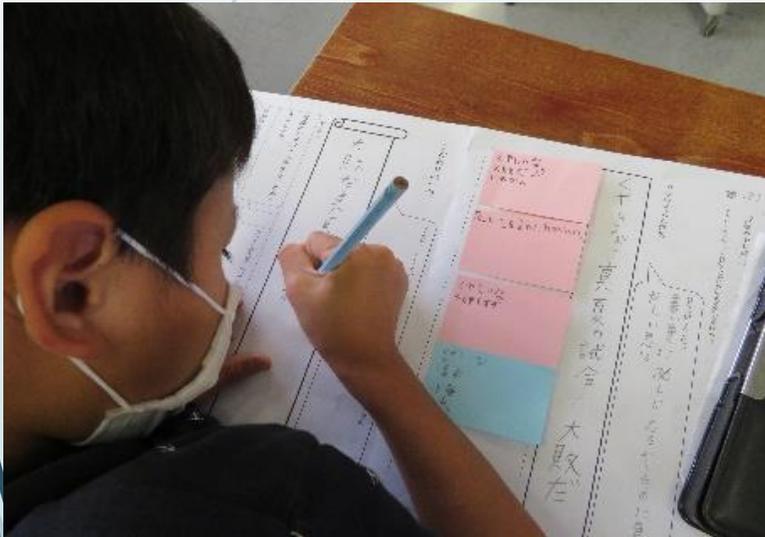
△次年度へ向け、国語コーナーの設置方法を検討。



授業研究 1

令和4年6月15日（水）

言葉をよりすぐって俳句を作ろう「日常を十七音で」
5-2 西澤教諭



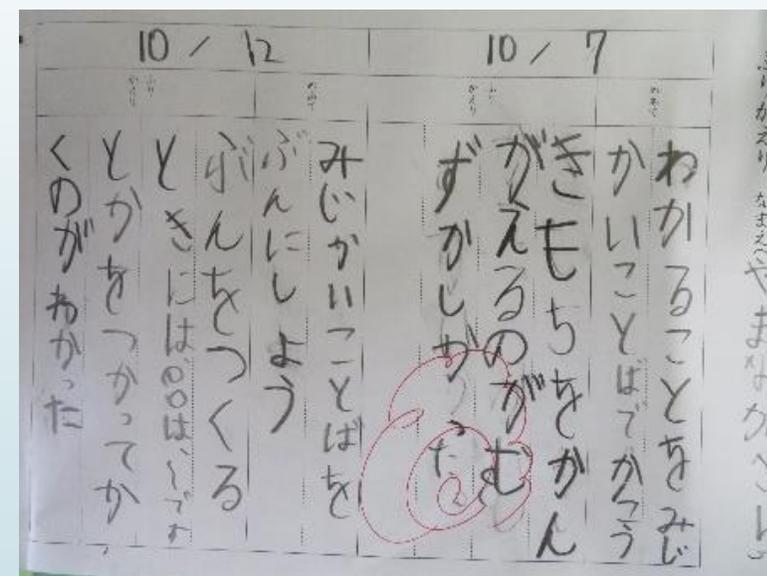
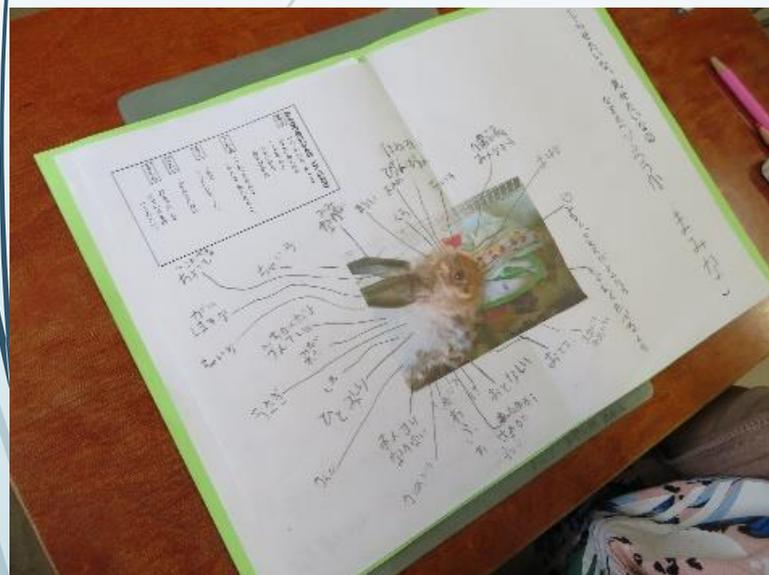
俳句の表現を工夫し 「こだわりの一句を作る」 という授業

授業研究 2

令和4年10月12日(水)

くわしくかこう「しらせたいな、見せたいな」

1-2 金谷教諭



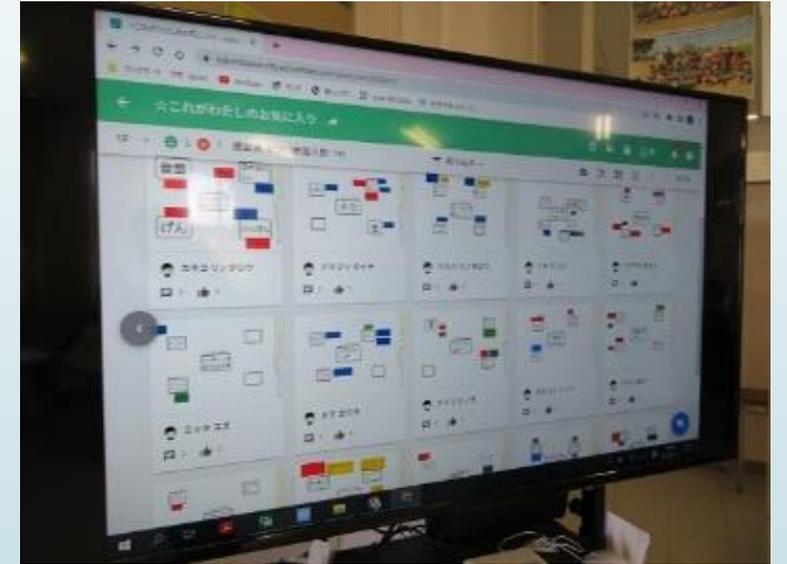
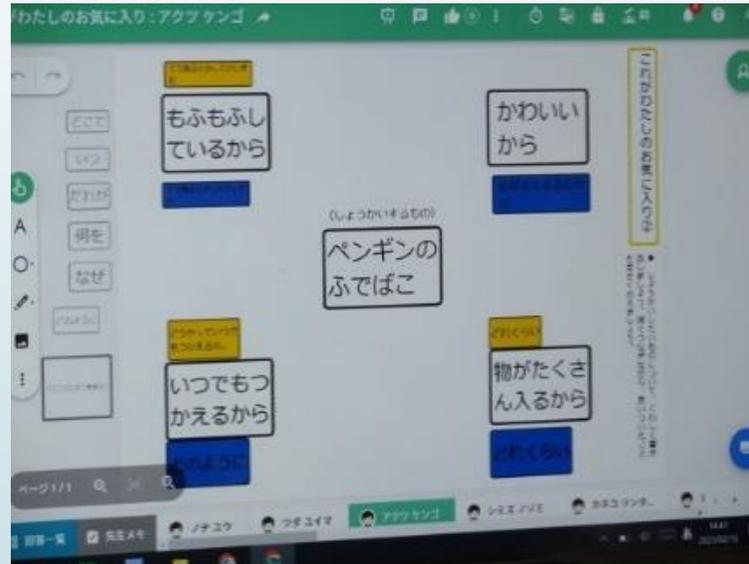
- 正しい文を書くために「まなびあいタイム」を設定。
- ワークシートを活用した「めあて」と「ふりかえり」。

授業研究 3

令和5年2月15日（水）

しょうかいして、感想を伝え合おう「これがわたしのお気に入り」

3 - 1 小山教諭



クロムブックの活用は「様々な情報の収集・インプット」「離れた場所の相手との交流」「思考を練り直すための材料」が有効

ご指導いただいた先生方

■ 西部教育事務所 指導主事 田中速夫 様

6 / 1 5 授業力向上のための指導訪問・授業研究会

■ 教育委員会学校教育課 指導主事 久住美晴 様

8 / 2 3 校内研修「国語科の授業づくり」

1 0 / 1 2 校内授業研究会

2 / 1 5 校内授業研究会

学んだこと・共通理解①

▶ 国語科の基本的な授業展開の確立

ア) 学びたくなる「めあて」

イ) 課題解決に向けた「見通し」

ウ) 考えが広がり、深まる「学び合い」⇒グループ

⇒個、アウトプット（発信）

▶ 会話から「対話」へ

⇒結論を急がず、相手の考えを理解しようとしながら話をする。

対話を通して、考えがわかる、深まる、見つかる。

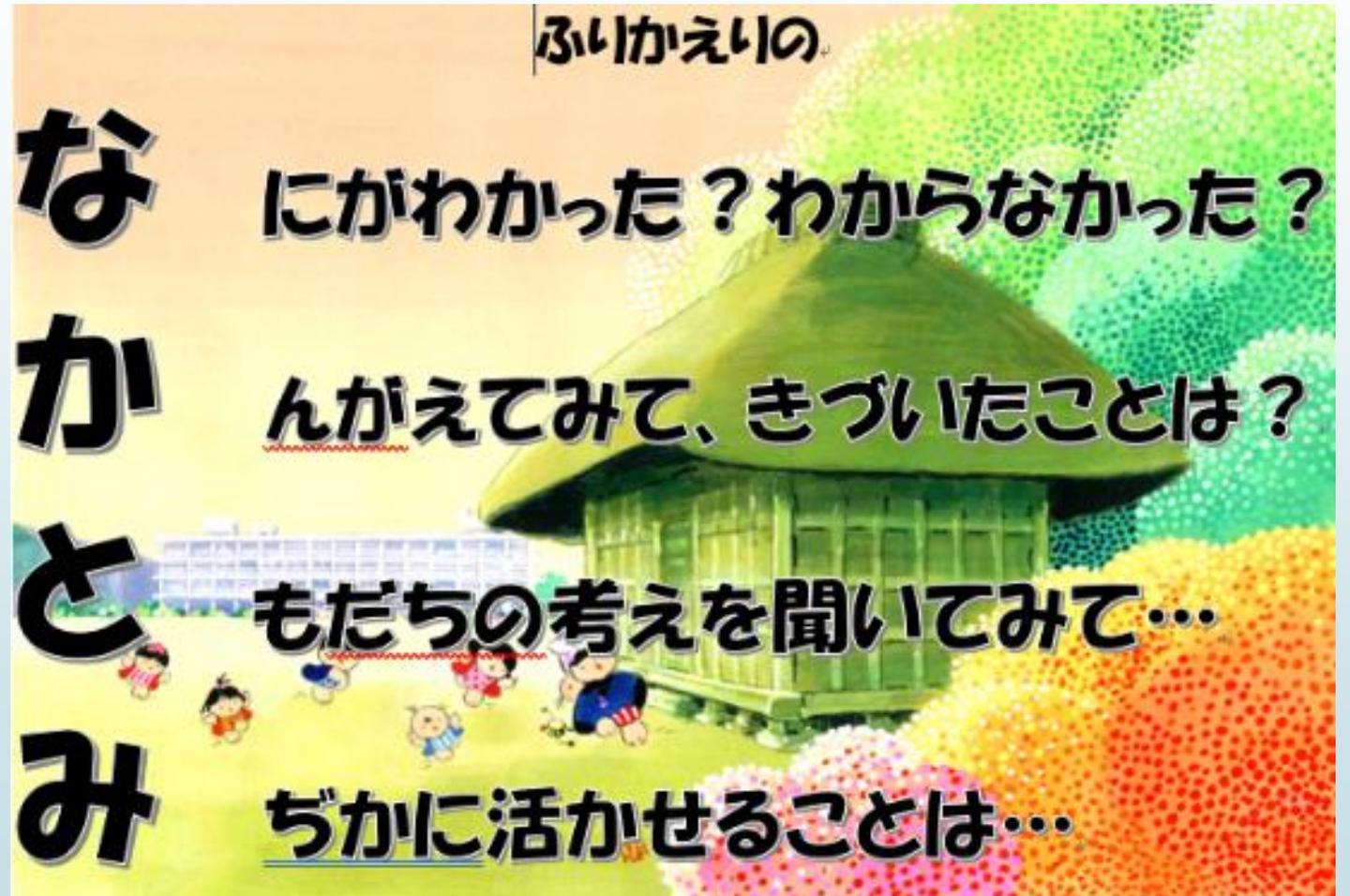
エ) 学んだことを理解・確認する「まとめ」

オ) 学びを捉えなおす「振り返り」

学んだこと・共通理解②

▶ 振り返り活動の充実

- ・ 学年の発達段階に応じた振り返りの方法
- ・ 「な・か・と・み」に沿った振り返り内容の確立
- ・ 書き出しの工夫
「わたしは～」で書き出す
- ・ 継続して書く活動を行い、文章力が向上した



学んだこと・共通理解③

▶ 1時間のねらいの確実な設定

1年生の授業で「○○は、～～です（ます）。」という話型を活用すると、子ども達はわかりやすい文を書くことができた。

本時の学習について、教師がねらいをしっかりともち授業を行っていることがとてもよくわかった。

学んだこと・共通理解④

▶ 学び合いでも基本的な話型があると、

その後に生かすことができる

初めのうちは「学び合い」でも話型例を活用し、児童が自信をもって対話できるようにする。また、低学年になればなるほど、学び合うときのポイントをしぼり、「これだけは全員が必ず伝えよう」とすると、伝えることが苦手な子にとっても学び合いがしやすくなる。伝えることが得意な子は、「ほかのことも伝えていいよ」としておくとよい。

▶ ただし、子ども達が間違うことを怖がってしまうような活動にならないよう、教師は気をつける。

学んだこと・共通理解⑤

▶ 「授業」は、『全体につけたい力』から創る

単元を終えたときに『全体につけたい力』を考える。例えば、俳句の授業では、「自分の気持ちとぴったりあうような言葉にこだわった俳句を作ることができる」や「友達の作品に自分なりのアドバイスをする」など。この『全体につけたい力』を単元の前に考え、学習計画を考える。

学んだこと・共通理解⑥

▶ 「まとめ」は全体、「ふりかえり」は各自で行う

「まとめ」は全体で行い、「めあて」に正対した内容にする。「ふりかえり」は記述式で行う。子ども達が授業をどうとらえたかがわかるので、教師自身の授業の振り返りにもなる。

学んだこと・共通理解⑦

▶ 学習後は「自分の変容」を実感させる

「学ぶことは、前の自分から何かが変わること」と捉え、子ども達に自分の変化を実感させたい。それには自己評価・他者（教師による）評価が欠かせない。特に、がんばったことを認められたり、心の底から「すごい！」と褒められたりした子どもは、自己肯定感が上がりし、さらに「先生は自分のことを見てくれている」と信頼関係の向上にもつながる。子どもが頑張っていて活動しているときは机間指導で様子を観察し、子どもの変容や努力する姿を、その場や後からでも褒めるとよい。

学んだこと・共通理解⑧

- ▶ 「考えさせる」ためには、
教師の意図的な「切り返し」が大切

授業を円滑に進めつつ、児童の思考が深まるものにするには、「どうしてかな?」「どうやって考えたの?」「みんなはどう思う?」など教師の声かけが大切になる（円滑に進める技法＝ファシリテーション）。

日常的な授業から、場面に応じて様々な切り返しができるようにしたい。

令和5年度 主な取り組み

▶ 国語科充実のための研修会

埼玉大学教育学部准教授

本橋 幸康 先生

ご講演

『学ぶプロセスを残すこと』

『書く前の材料が核となる』

『条件付けて書かせる』

『系統表のさらなる充実』

令和5年6月15日（水）



研修方針

- 児童の実態把握と取り組みの工夫を共有する。 ▶ 調査環境部
- 授業づくりの工夫を共有する。 ▶ 授業研究部
- 全学年の言語活動の系統性を検討する。 ▶ 研究推進委員

研究仮説の修正

(1) 国語科の授業において、児童が 「学びの見通し」 をもち、工夫ある「対話的活動」 がなされれば、児童の「話す・聞く・考える活動」が充実したものになり、「書く活動」において 自己の考えを表現できる 児童が育つだろう。

(2) また、「対話的活動」や「書く活動」で 自己の伸びを実感できれば、自ら学ぶ 意欲が向上 し、確かな学力を身につけた中富っ子が育つだろう。

調査環境部

実態把握

第1回国語アンケート

① 書くことは好きですか。

1年

どちらかといえばすき

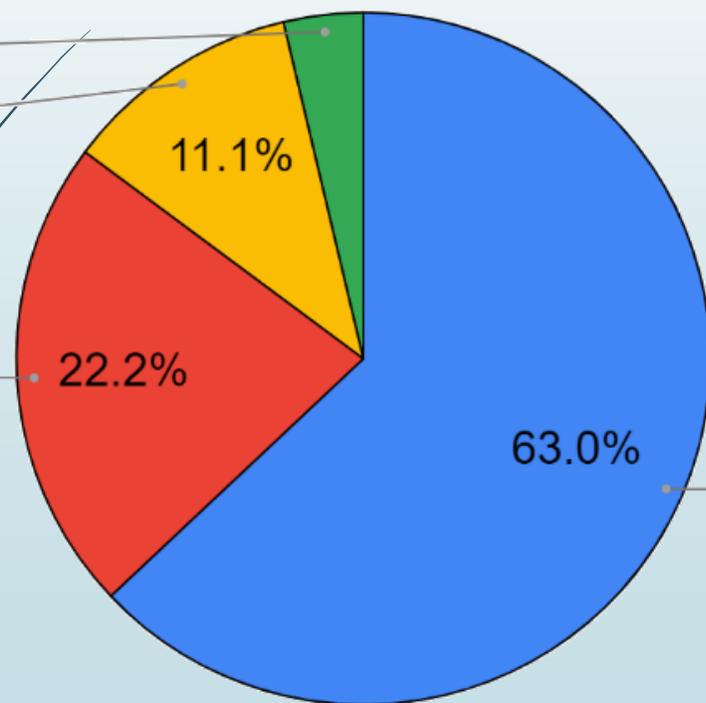
3.7%

すきではない

11.1%

どちらかといえばすき

22.2%



2年

すきではない

4.4%

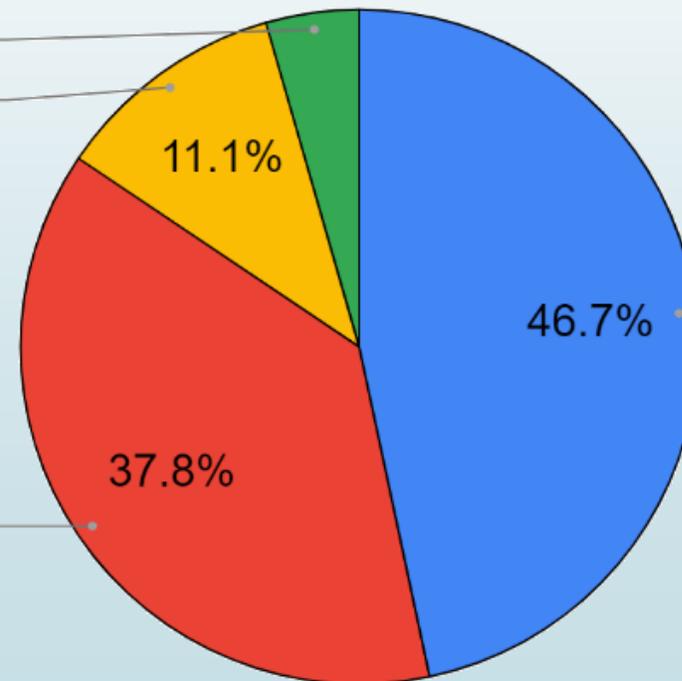
どちらかといえばすき...

11.1%

すき

どちらかといえばすき

37.8%



調査環境部

実態把握

第1回国語アンケート

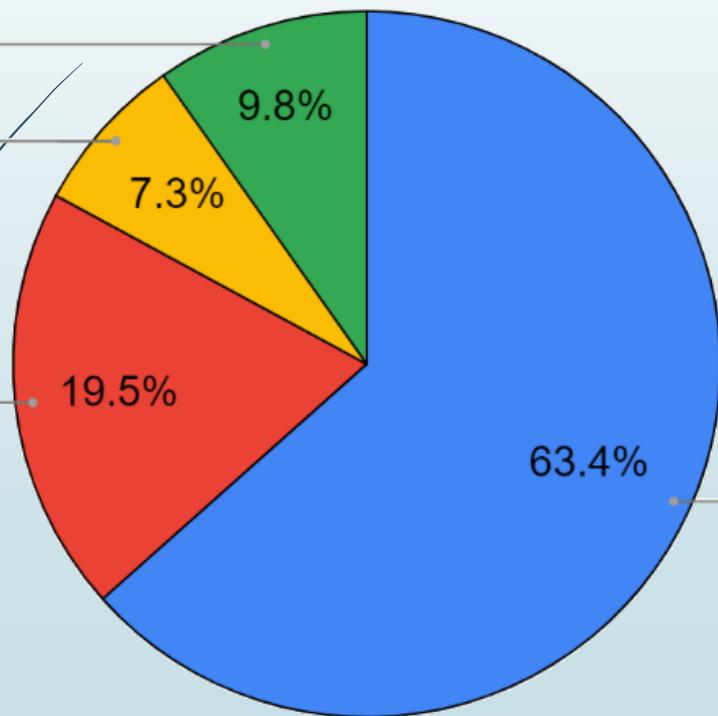
① 書くことは好きですか。

3年

好きではない
9.8%

どちらかといえば好...
7.3%

どちらかといえば好き
19.5%



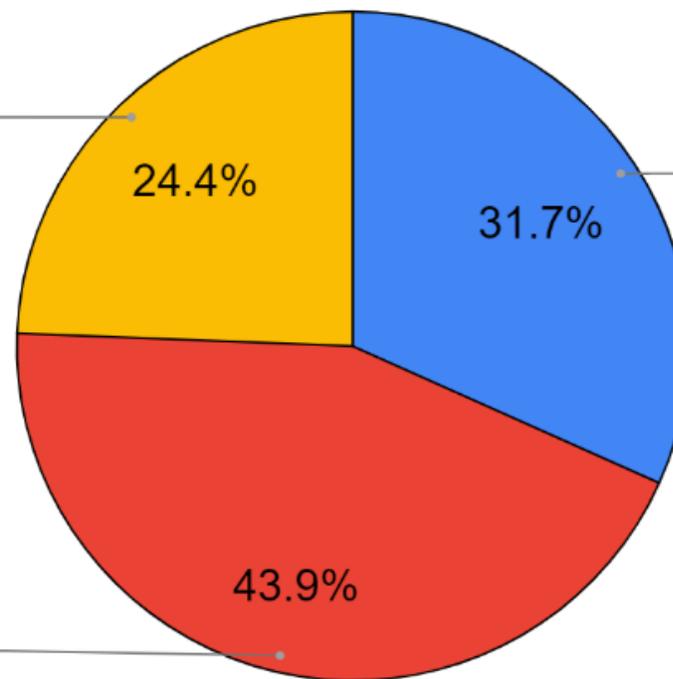
4年

どちらかといえば好...
24.4%

好き
31.7%

好き
63.4%

どちらかといえば好き
43.9%



調査環境部

実態把握

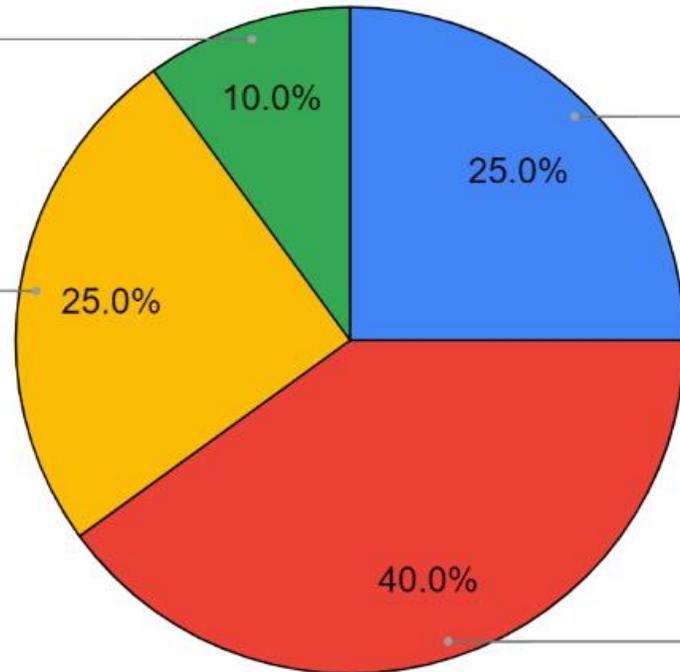
第1回国語アンケート

① 書くことは好きですか。

5年

好きではない
10.0%

どちらかといえば好...
25.0%



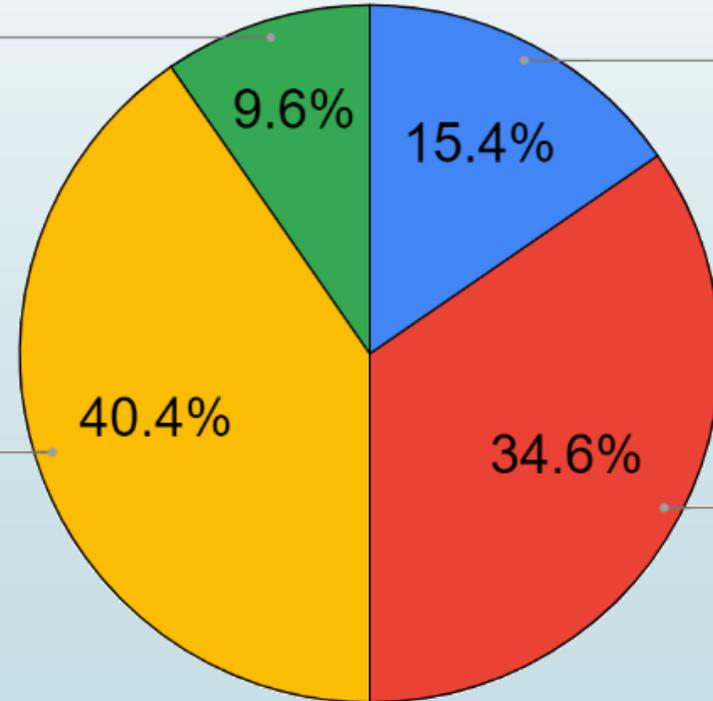
「6年」

好きではない
9.6%

好き
25.0%

どちらかといえば好...
40.4%

どちらかといえば好き
40.0%



好き
15.4%

どちらかといえば好き
34.6%

調査環境部

実態把握

<考察>

中富小の児童は、書くことに対して肯定的な感情をもっていることが分かる。低学年、中学年は、「好き」「どちらかといえば好き」の合計が70%以上である。

4年生以上になると「好き」の割合が30%以下である。高学年は、書くことに対して苦手意識をもっていたり、課題に対して何を書いて良いか分からず取り組めなかったりする児童が多いと考える。

調査環境部

実態把握

第1回国語アンケート②

- ▶ 低学年 = 自分の思ったことを書くことができますか。
- ▶ 中学年 = 自分の思ったことや伝えたいことを書くことができますか。
- ▶ 高学年 = 自分の思いや考えを書くことができますか。

中富小の児童は、自分の思いや考えを書くことが「できる」と答えた児童が各学年50%以上である。「できる・どちらかといえばできる」を合わせると80%以上である。課題に対して、自分の思いや考えをしっかりと書けたと満足している児童が多いと考える。しかし、内容が充実しているか、課題に対して的確か、その点においては課題である。

調査環境部

実態把握

第1回国語アンケート③

- ▶ 低学年 = 自分で書いた文を読み返して、まちがいを直すことができますか。
- ▶ 中学年 = 自分で書いた文を友達と話し合いをして、直すことができますか。
- ▶ 高学年...自分で書いた文を対話して、文を整えることができますか。

低学年と中学年は、「できる・どちらかといえればできる」を合わせると80%以上である。6年生は、「できる」が約25%「どちらかといえればできる」が約60%「どちらかといえればできない。できない」が約15%である。対話をする中で、友達に何を助言すれば良いのか、文をどのように整えれば良いのか、理解できない児童がいると考える。対話の内容や推敲の仕方を指導する必要がある。

調査環境部

実態把握

第1回国語アンケート④

- 低学年（1～3年）...言葉をよく知っていると思いますか。
- 高学年（4～6年）...語いを多く知っていると思いますか。

低学年は、「知っている」が約50%である。1年生は、「どちらかといえば知らない、知らない」が40%である。入学したばかりで、言葉の意味や使い方が理解できない児童が多いと考える。

高学年は、「知っている」が約15%、「どちらかといえば知らない、知らない」約30～40%である。児童が、いつも同じ言葉を使っていて、語彙数の少なさを感じていると考える。

調査環境部

実態把握

第1回国語アンケート⑤

■ 書くときに困ったことはありますか。（記述式）

<1年>

- ・文字がわからなくなった
- ・ひらがながわからなかった
- ・書く内容がわからなかった
- ・書くのが難しい
- ・字がわからなかった
- ・文字をまちがってしまう
- ・理由を書くのが難しい

<2年>

- ・なんもできないことがあるから

<3年>

- ・どのような書き出しにすればよいのか分からない
- ・漢字が困ったことがあります
- ・書き方がわからない
- ・どんなふうになればいいのかがわからない
- ・書くのがおそくて先生に早くといわれて自分で読めなくなる

調査環境部

実態把握

第1回国語アンケート⑤ 書くときに困ったことはありますか。 (記述式)

<4年>

- ・内容が決まらないとき
- ・新聞を書くときに困った
- ・漢字が分からない
- ・字の間違いに困った
- ・内容がときどきよく分からないときがある
- ・振り返りで書くときに何を書けばいいのか分からなかった
- ・文の土台をどうするか例えば読書文とか
- ・カタカナが忘れて書けないときがある
- ・人の気持ちを考えるときなど
- ・言われたことがよくわからないときがある

<5年>

- ・どのように書き表せばよいか分からないとき。
- ・文を整えられない。
- ・漢字が苦手で分からなくなってしまうこと。
- ・日本語が時々分からない事がある
- ・きれいに書けない
- ・文をダラダラ書いてしまうと分かりづらいと思うと考えこんでしまう。

<6年>

- ・文が思いつかない。
- ・点の位置など
- ・漢字がわからない
- ・書き出しです。
- ・内容は沢山出てくるけどどこからそれを始めるのか、困ります。
- ・文が複雑になってしまう。話の内容がよく変わることがある
- ・どのように表現するか
- ・書いたときにどんなことを書けばいいのか
- ・うまく言葉が思いつかない。
- ・私は、文章力がないので、書くときは、苦戦します。
- ・どのように文を変えて分かりやすく書けばいいか困りました。

調査環境部

活動計画

1、国語コーナーの設置

- ・ 9月...気持ちを表す言葉（喜怒哀楽）の掲示物作成

2、「詩の暗唱」の取り組み

- ・ 2学期以降も継続して取り組む。学期に1回実施。
- ・ 11月末...各学年で詩を選び掲示する。
- ・ 12月 ...①詩の暗唱チャレンジに取り組む（期間2週間）
 - ②国語コーナーの隣に暗唱チャレンジ達成者の掲示物を作成する。
 - ③冬らしいものを掲示物にする。→研究発表の日まで掲示しておく。

3、授業で活用できるもの

- ・ 低学年...書き方（始め、中、終わり）、語彙に関する掲示、
- ・ 中学年...書き方（始め、中、終わり）、接続詞
- ・ 高学年...推敲の仕方、対話の仕方
- ・ 全学年...原稿用紙の使い方

授業研究部

中富小としての重点

1 学んだことがゴール（成果） につながる単元計画

- 手順を具体的に示し、見通しをもたせる。
- ゴールのイメージをもたせる。
- 目的を明確にし、必然性をもたせる。
- 適切な評価を通し、達成感を味わわせる。

2 書くための材料集めをどのよう に集めるか、何を集めるか

- 事実、気持ち、理由などの何にあたるのか
- 材料の集め方
- 思考ツール（クラゲチャートやウェビング）の活用
- ICTの活用

3 推敲（文章を読み返す習慣をつける）

- ・ 自分や他人による推敲の方法の工夫
- ・ 推敲したことが残るワークシート

【低学年】

- ・ 自分で読み返す
- ・ まちがいを正す
- ・ 語や文の続き方

【中学年】

- ・ 相手を確認める
- ・ 目的を確認める
- ・ 文を整える

【高学年】

- ・ 文章全体の構成
- ・ 表現の工夫
- ・ 適切な語句

4 「ふりかえり」を通して、 自分の変容をとらえなおす

- 1～4年生は、「現在－未来」で書く。
(「今日分かったこと」「次はこんなことをしたい」)
- 5～6年生は「過去－現在－未来」で書く。
(「授業前の自分のこと」を入れて書く)
- 変容したことを適切に評価

5 その他

- 書き出しの例、文章の例などを提示
- キーワード作文、条件をつける
- つなぎ言葉
- 対話の手引き

授業研究部

中富小としての重点

日常的な取り組みとして

- 朝学習の活用 → 実践の可視化
- 辞書の活用 → ふせん、マーカー
- 音読、正しい文をくり返し読む
→ 追い読み、一斉読み、ペア、個人
- 読書活動の充実 → 読書月間、学級文庫

⇒中富小の基礎になるよう次年度以降へ引き継いでいく

「書くこと」 系統表

	中富小の重点	児童一人一人に身につけたい主な学習内容	用語	情報の扱い方
1年	単語から始まり、一文～二文の簡単な文を正しく書くことができる。	(1) くわしく書く(色、形、大きさなどの特徴を見つけて)。 (2) 順序に気をつけて書く(句読点、「は」「を」「へ」)。 (3) わかりやすく書く(短い文で)。 (4) まちがいがいか読み返す。	作者 題名 訳者	
2年	「初め・中・終わり」がはっきりした文章を書くことができる。	(1) 組み立てを考えて書く(初め・中・おわり)。 (2) 順序がわかるように書く(まず、つぎに、それからなど) (3) 日記や詩を書く(出来事、思ったことや想像したことを書く)。 (4) 書いた文章を読み返して、まちがいがいか確かめる。	登場人物、メモ あらすじ 組み立て 質問、筆者 話題、出来事	順序を捉える メモを取る 本で調べる
3年	相手や目的に応じ、理由や事例をあげて文章を書くことができる。	(1) 組み立てを考えて書く(わかったことと考えたことの区別)。 (2) 例を挙げて書く(内容のまとまりごとに段落で分ける)。 (3) ていねいな言葉で気持ちが伝わる手紙を書く。 (4) 書いたことに対して、感想を伝え合う(良いところを見つける)。	場面、段落、問い 引用、句読点 さく引、連 キャッチコピー 会話文、地の文 司会、奥付 語り手	全体と中心 引用する 科学読み物で 調べる
4年	相手や目的に応じ、文章の常体と敬体の違いに注意しながら、文章を書くことができる。	(1) 事実をわかりやすく伝える(伝えたいことの中心を明らかにする)。 (2) 理由や例を挙げて、考えを伝える。 (3) お礼の手紙で気持ちを伝える(何に対してどんな気持ちなのかを書く)。 (4) 文章の感想を伝え合う(書き手の考えをつかむ)。 (5) 読み返して、書いたものを整える。	簡条書き 要点、対比 設定、要約 見出し、取材 割付、情景 アンケート調査 議題、出典	考えと例 要約する 百科事典で調 べる
5年	書き出しを工夫しながら、事実と意見を区別して文章を書くことができる。	(1) 調べたことを正確に伝える(目的に応じた資料の活用、事実と考えの区別)。 (2) グラフや表を用いて書く(資料と文章の対応、わかることと考えたことの区別)。 (3) 表現を工夫する(言葉を選ぶ、順序や表記を工夫する)。 (4) 相手や目的に合わせて書く(見出しや呼びかけの工夫、伝えたいことを絞る)。 (5) 説得力のある意見文を書く(反論を想定して、それに対する考えを入れて書く)。	心情、人物像 日本十進分類法 要旨、構成 事例、主張 根拠、山場	原因と結果の 関係 目的に応じて 引用する 統計資料を読む
6年	自分の思いを明確にし、表現の効果を考えながら言葉を選んで文章を書くことができる。	(1) 提案する文章を書く(現状や問題点を整理して、提案理由を明確にする)。 (2) 伝えたいことに適した構成を考えて文章を書く(読み手を引き付ける表現)。 (3) 伝えたい思いを明確にして書く(読み手に自分の思いが伝わっているか確かめる)。 (4) 言葉を選んで短歌を作る(様子を伝える、並べ方の工夫)。 (5) 考えたことや感じたことを伝える(ふさわしい言葉を選ぶ)。	視点 著作権 推敲	主張と事例の関係 情報と情報をつな げて伝える 情報を用いる
中学	題材の設定、情報の収集、内容の検討 構成の検討 考えの形成、記述 推敲 共有	(1) 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする。 (2) 書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考える。 (3) 根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。 (4) 読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。 (5) 根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。		

授業研究 4

令和5年9月6日（水）

組み立てにそって、物語を書こう「たから島のぼうけん」

3 - 2 靱矢教諭



【本時のめあて】
地図を見ながら、
物語の内ようを考えよう。

一人一授業の授業シート

【授業日】 令和5年9月6日（水） 6校時

【授業者】 靱矢祐紀

本時のねらい	「たから島の地図」から具体的に想像を広げ、書きたいことを選んで、自分がつくる物語の大まかな内容を考えることができる。	
課題研究とのかかわり	(1) 指導について (どんな教材か、指導上の工夫・ポイントは何か) ・「たから島の地図」にのっている様々な挿絵から想像を豊かに広げられる教材である。 ・書きたいことを、「始まり・出来事(事件)・出来事が解決する・結び」の4つの構成を用いて書かせる。 ・完成した物語を図書室に置くことを伝え、相手意識をもたせる。	
	(2) 本時の評価 (本時で目指す児童のすがた、知識技能・思考判断表現・学びに向かう姿) (思考・判断・表現) ・書きたい内容の中心を明確にして、物語の大まかな内容を考えている。	
授業の展開		
導入 めあて 見通し	○学びたくなるめあて ・見通し	○たから島の地図を見せて、「自分だけ」の物語を考えることを伝える。 めあて 地図 を見ながら、 自分だけ の物語を考えよう ・物語の条件を確認する。 ・物語で起こりそうな出来事を全体で想像する。
学び合い	◎対話的活動 ◎書く活動	◎物語の条件に沿って書けているか、また、どんな出来事になっているかをペアで話し合う。 ◎友達の見受けを受け、自分で考えた物語をよりよいものに書き直していく。 ワークシートに自分で考えた大まかなストーリーを記入する。
まとめ ふりかえり	・全体でのまとめ ○ふりかえり	・自分だけの物語は、_____すると楽しくなる。 ○学習カルテに本時の振り返りを記入する。